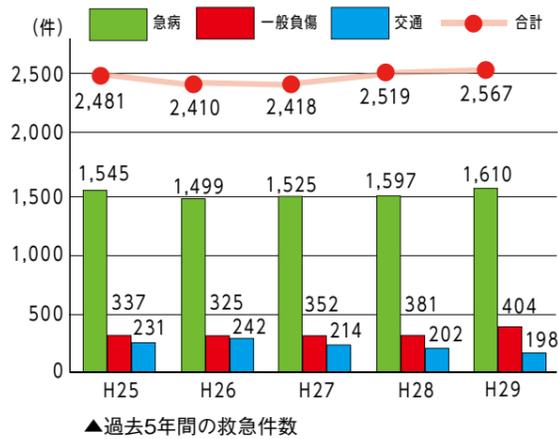


ついでに？
住宅用火災警報器
半年に一度は作動確認

お問い合わせ先 消防本部 (☎62-0119) ホームページもご覧ください。
http://www.city.kyotango.lg.jp/kcfd/

火災からの逃げ遅れを防ぐため、寝室に住宅用火災警報器を設置しましょう



救急件数 過去5年間で最多
救急出動件数は、前年から48件増加し2,567件でした。
種別ごとに見ると、急病が1,610件(全体の63%)で最も多く、一般負傷が404件(全体の16%)、交通事故が198件(全体の8%)でした。
救急車による搬送人員は、前年から45人増加し、2,415人でした。そのうち、65歳以上の高齢者が1,593人で、全体の約7割を占めました。
ドクターヘリと連携して活動した件数は、148件(全体の6%)でした。

救急
2,567件



消防長 上田 一朗

安心して暮らせる災害に強いまちづくりの推進

近年、地震、台風、噴火など規模の大きな自然災害が頻繁に発生し、各地に甚大な被害をもたらしています。
本市におきましても、昨年9月17日から18日にかけて台風18号が直撃し、記録的短時間大雨情報が発表される中、人的被害こそありませんでしたが、網野町、丹後町を中心に至るところで道路が冠水し、床上・床下浸水など多くの被害が発生しました。
昨年、市消防本部では旧溝谷小学校グラウンドを活用して、夜間の離発着にも対応可能な24時間型のヘリポートの整備を行いました。今後も消防団はもとより、自主防災組織や市内各事業所など関係機関との連携強化に努め、市民の皆さんが安心して暮らせる災害に強いまちづくりを進めていきます。

火災
28件

建物火災20件、死者は3人

平成29年の火災件数は、前年から11件増加し28件でした。種別ごとに見ると、建物火災が20件、その他火災が3件、車両火災が3件、林野火災が1件、船舶火災が1件でした。
火災による死者は3人で前年から2人の増加、負傷者は7人で前年から6人の増加となりました。
建物火災の原因では、たき火、火入れによるものが3件、こんろ、煙突、煙道によるものが2件発生し、その他には電気機器や配線器具、ストーブによるものがありました。

設置率100%を目指して 戸別訪問を実施中!!
市消防本部では、住宅用火災警報器の設置率100%を目指して、住宅火災での逃げ遅れが特に懸念される65歳以上の高齢者世帯を対象に、戸別訪問を実施しています。

その結果、平成30年2月現在、戸別訪問を実施した市内住宅における住宅用火災

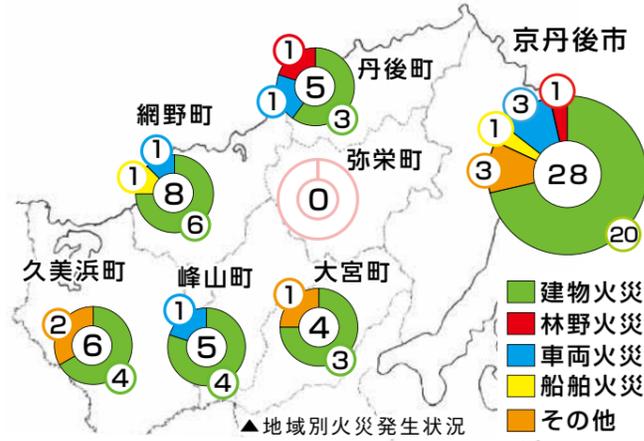
統計で見える京丹後の実態

平成29年中の火災、救急、救助など、消防に関する各種の統計調査結果をお知らせします。

救助
46件

台風18号による自然災害で 救助件数が増加

警報器の設置率は、78.5%でした。
万一の火災をいち早く感知し、音声などで知らせてくれる住宅用火災警報器は、火災の被害を最小限に抑え、逃げ遅れによる死者を防ぐための決め手です。必ず住宅用火災警報器を設置しましょう。



救助出動件数は、前年から9件増加し46件でした。種別ごとに見ると、交通事故が最も多く20件、自然災害(台風18号によるもの)が7件、水難事故が5件、機械による事故が2件、その他の事故が12件でした。
死者が5人発生し、その内訳は、交通事故によるものが2人、水難事故によるものが1人、その他の事故によるものが2人でした。
昨年は、台風18号の影響で多くの被害が発生し、それに伴い救助出動件数も増加しました。台風や大雨、地震等による自然災害は、発生を防ぐことはできません。しかし、災害が起きたときに、少しでも被害を少なくする「減災」という考え方が大切です。
日頃の備えと落ち着いての行動が被害を最小限に抑えます。



通信
3,482件

火災・救急・救助は 局番なしの119番へ!

119番通報の受信件数は、前年から97件増加し3,482件でした。そのうち、問い合わせやいたずら等の通報が676件(全体の19%)ありました。
また、救急車などを要請される際、消防署の一般加入電話に通報される方がおられます。その場合、出動する隊員が電話を受けていることになり、出動までの時間が遅れてしまいます。
1分1秒でも早く災害現場に到着できるように火災・救急・救助の要請は、局番なしの119番(緊急回線)へお願いします。



夜間の離発着が可能 京丹後市消防ヘリポートを整備

市消防本部では、弥栄町溝谷の旧溝谷小学校グラウンドを整備した「京丹後市消防ヘリポート」の運用を平成29年9月に開始しました。
消防ヘリポートは、消火活動、救急救助活動およびその他の災害対策時に飛来するヘリコプターの離発着などに使用され、航空用灯火も備えていることから、年間を通して夜間も離発着が可能なヘリポートです。
市立弥栄病院から東北東約1.2

kmに位置し、京都市内に緊急搬送する場合など、従来では京都府立医科大学附属北部医療センターのヘリポートまで数十分かけ移動していましたが、その時間を大幅に短縮することができます。
また、早期医療介入による救命率の向上、後遺症の軽減、災害時の医療救助活動のためドクターヘリの場外離着陸場としても活用し、救急救命体制のさらなる向上を図ります。



▲上空から見た消防ヘリポート



▲離発着訓練中の防災ヘリコプター (京都市消防局)